

プログラムの概要

卒後臨床研修の選択必修プログラムの一つとして、当プログラムを選択した研修医は卒後臨床研修2年間のうちに4週間の研修を行います。ただし、疾患の診断と治療の概念をより深く理解していただくために、8週間以上の研修期間を推奨しています。将来的にどの科に進まれることになっても、うつ病などの精神疾患に対応する機会は多いと思います。当科では、プライマリーケアに役立つ研修(特に気分障害の診断と治療、向精神薬の使い方、コンサルテーション・リエゾン精神医学の実践)を目的としており、精神科的アプローチを理解した医師の養成に努めます。もちろん、初期臨床研修の必須疾患である「うつ病」、「統合失調症」および「認知症」のレポート作成には積極的に指導致します。さらに、自由選択科目としての選択も可能であり、当院以外では、密接な関連のある県内の精神科病院、精神保健福祉センターなどで研修を行うこともできます。

アピールポイント

総合病院における精神科として、うつ病などの気分障害の治療を専門的に行っているほか、認知症の初期鑑別診断や他科との連携治療にも力を注いでいます。指導医は全て精神科の専門医であり、このほか日本臨床精神神経薬理学会専門医、臨床遺伝専門医、および一般病院連携精神医学専門医を擁しており、各学会の臨床研修指定施設に認定されています。安全性を高めた電気けいれん療法(ECT)は年間200件程度の実績があるほか、治療抵抗性の統合失調症の治療薬であるクロザピンの認定医療機関になっています。また、精神疾患の診断、治療成績を向上させ、社会に資するべく、幅広い視点から調査、研究を行っています。

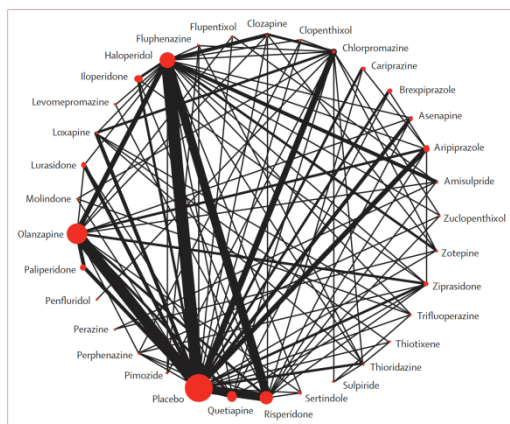
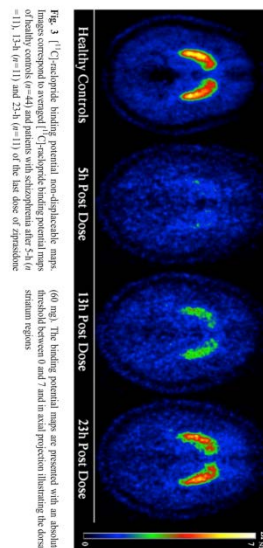
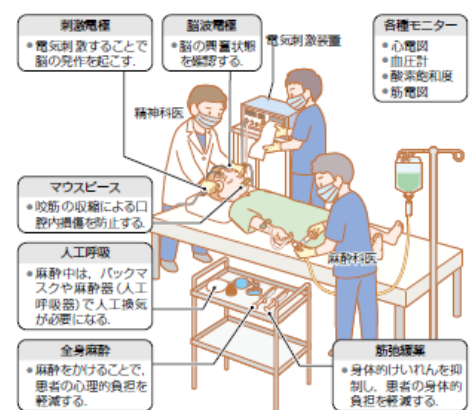


Figure 1: Network plot of overall efficacy. The size of the nodes corresponds to the number of participants assigned to each treatment. Treatments with direct comparisons are linked with a line; its thickness corresponds to the number of trials evaluating the comparison.

Huhn M, et al. 2019



Suzuki T, et al. 2013



こころの健康がみえる p398. 2024

具体的な研修内容

精神疾患の中でも特に気分障害を中心に、指導医の親身な指導のもとで、複数患者の主治医となります。クルズと実践を通して、精神症状や向精神薬の使い方について理解を深めていただき、患者さんとの接し方、より良い治療同盟の構築の方法を学んでいただきます。また、電気けいれん療法や合併症治療により全身管理を行う機会もあります。加えて、コンサルテーション・リエゾン・サービス(CLS)の一員として、各病棟を回診し、身体疾患に合併して精神医学的問題を抱えている患者さんの対応にもあたります。このほか、集団精神療法にも積極的に参加していただき、希望に応じ外来新患の予診を担当していただきます。研修終了時には担当した患者さんの症例報告を教室の研究会で行います。自由選択科目においては、より多種の精神疾患症例を担当してもらうとともに、研究面に対して幅広く興味を持って頂けるよう指導致します。